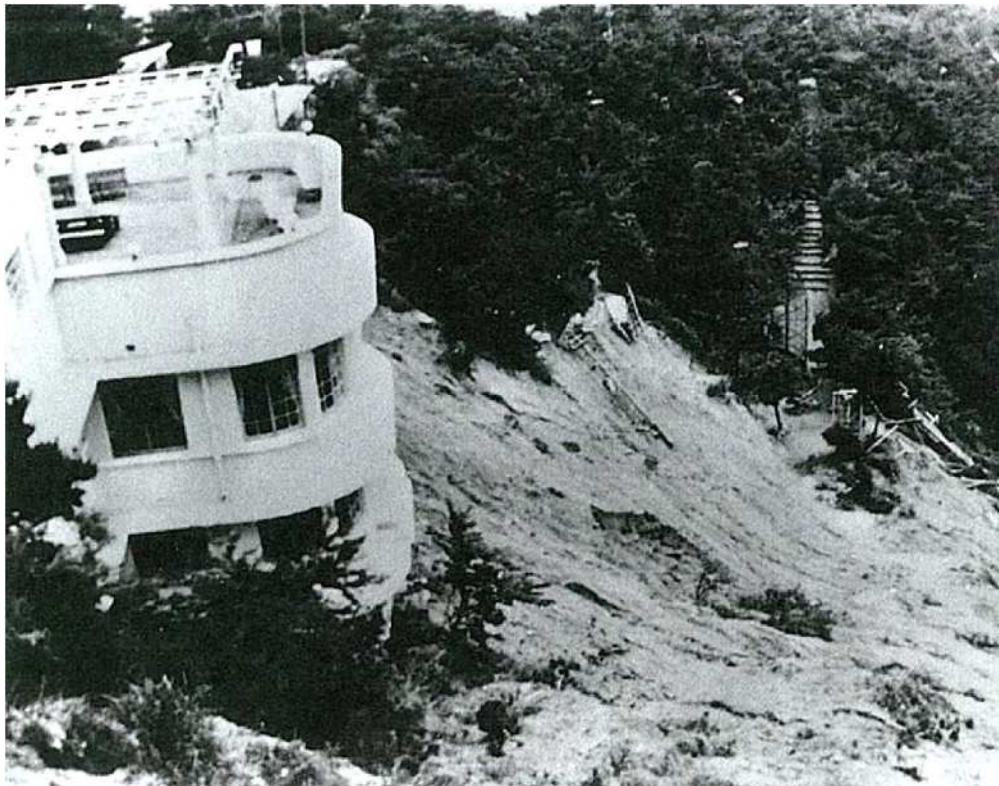


昭和 13 年阪神大水害 山腹斜面の崩壊と復旧

(神戸市灘区畠原字ノタ山)



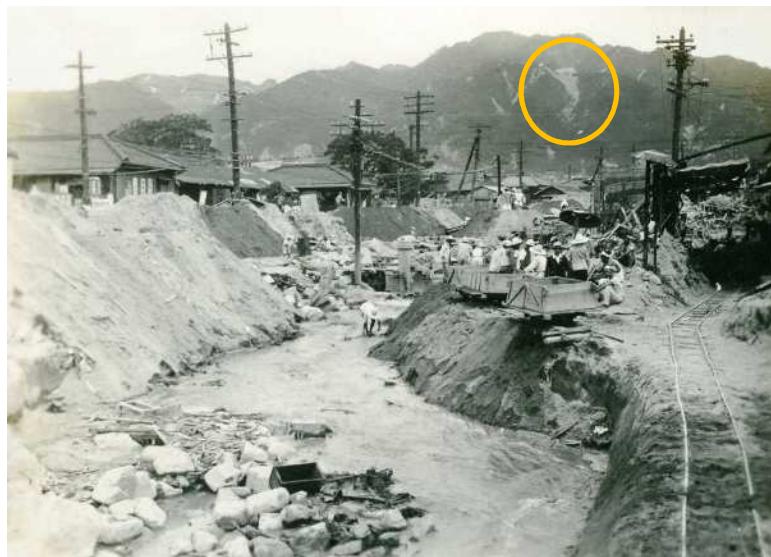
「摩耶観光ホテル」と山腹斜面の崩壊状況



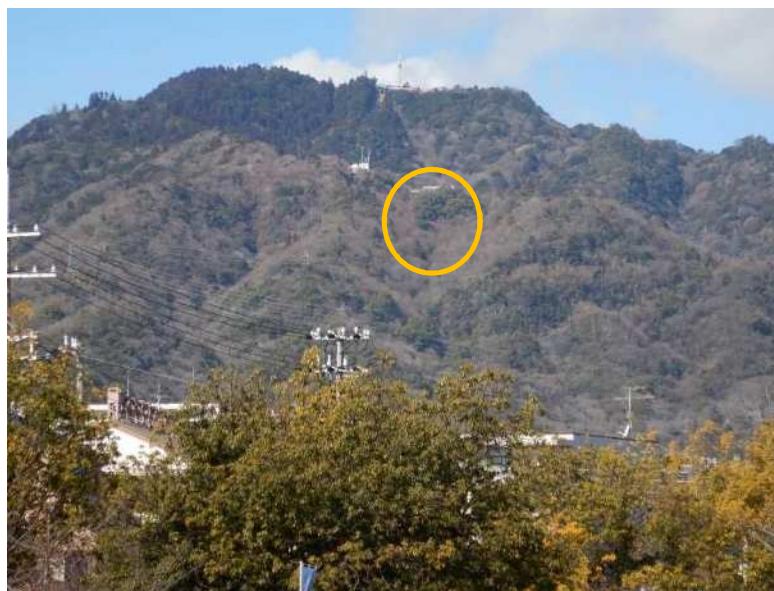
「摩耶観光ホテル」の現況（令和 4 年 7 月撮影）

昭和 13 年阪神大水害 山腹斜面の崩壊と復旧

(神戸市灘区畠原字ノタ山)



「摩耶観光ホテル」と山腹斜面の崩壊状況



「摩耶観光ホテル」の現況

近年、廃墟の女王として有名な「摩耶観光ホテル」直下の斜面が、昭和 13 年 7 月の豪雨で崩壊しました。

当時は戦時体制でしたが、都市化が進んだ市街地を保全するため治山工事が実施されました。

大正 14 年に摩耶ケーブルが操業しており、昭和 4 年に「摩耶観光ホテル」も開業していたことから早期の復旧が望まれました。

ちなみに「摩耶観光ホテル」は昭和 45 年に閉業し、令和 3 年に国の登録有形文化財に指定されています。

昭和 13 年阪神大水害 山腹斜面の崩壊と復旧

(神戸市灘区畠原字ノタ山)



練石護岸工とカツラ林

昭和 13 年阪神大水害の災害復旧工事箇所です。廃墟として有名な「摩耶観光ホテル」直下の斜面で、昭和 14 年から 17 年にかけて施工しました。

練石谷止工 22 基、空石谷止工 1 基、練石護岸工 540 m²、練石山腹工、空石山腹工、練石水路工、積苗工などが施工され、合計工事費が 92,300 千円という当時としては大規模な工事です。

周辺には、景観に配慮したカツラやイロハモミジが植栽されました。

80 年を経過したカツラは、樹高 30m・直径 70 cm に成長し、カツラの純林として晩秋には見事な紅葉を楽しませてくれています。



竣工記念碑（表）と
工事関係者の刻銘（裏）

昭和13年7月（阪神大水害）の被害状況

被害は阪神間の各市町村に集中し、中でも神戸市内では土石流が氾濫し、住吉川筋・宇治川筋では、流木・土砂により各施設の破壊が著しく多数の死傷者を出しました。



泥土の中に埋まる自動車（住吉川筋）



元町6丁目の惨状（宇治川筋）

昭和42年7月豪雨災害の被害状況

被害は表六甲に集中し、特に新生田川布引谷の市川原集落では山崩れにより壊滅状態となり、多数の死者を出し、宇治川では河川氾濫により商店街の浸水が発生しました。



市ヶ原の大崩壊



流木により被害を受けた宇治川商店街